

津山工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	社会科学入門
科目基礎情報					
科目番号	0045		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	機械工学科		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「憲法への招待 新版」 渋谷秀樹 岩波書店, 六法全書				
担当教員	大田 肇				
到達目標					
学習目的：国家の役割を理解していく中で、日本社会の有り様を把握していくとともに、それらの国家が創り出す国際関係についても論究していく。					
到達目標： 1. 日本国憲法の特殊性を理解できる。 2. 日本国憲法の人権保障について理解できる。 3. 日本国憲法の統治機構について理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	日本国憲法の特殊性を、歴史的、比較法的に理解できる。		日本国憲法の特殊性を大まかに理解できる。		日本国憲法の特殊性の基礎を理解できていない。
評価項目2	日本国憲法の人権保障について、歴史的、比較法的に理解できる。		日本国憲法の人権保障を大まかに理解できる。		日本国憲法の人権保障の基礎を理解できていない。
評価項目3	日本国憲法の統治機構について、歴史的、比較法的に理解できる。		日本国憲法の統治機構を大まかに理解できる。		日本国憲法の統治機構の基礎を理解できていない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般・専門の別・学習の分野：一般・人文・社会 必修・履修・履修選択・選択の別：履修選択 基礎となる学問分野：法学／政治学 学科学習目標との関連：本科目は一般科目学習目標「（５）国際性に富んだ人材を育成するための幅広い教養を身につける」に相当する科目である。 技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「（F）コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成，F－２：発表や討論をとおして，相手の考え方や知識の相互理解ができること」である。 授業の概要：国際化の時代において，国家の役割は相対的に低下しつつあるとは言え，それに代わる権力組織は存在しない。その働きを，憲法という視点から探っていく。				
授業の進め方・方法	授業の方法：テキスト・資料などを適量に分けて報告者に割り振っていく。報告者の報告をもとに，質疑応答を展開する。 成績評価方法： 1 0 0％＝前期末試験 8 0％＋予習用レポート 1 0％ ＋課題レポート 1 0％ 再試は実施しない。				
注意点	履修上の注意：本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1 単位あたり授業時間として 1 5 単位時間開講するが，これ以外に 3 0 単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。 履修のアドバイス：「黙っていても，技術で喰っていける」時代は過ぎ去った。最低限の表現能力は，身につけよう。 基礎科目：政治経済（２年），現代社会と法（４年） 関連科目：人間と歴史（５年） 受講上のアドバイス： 「沈黙は金」ではなく「沈黙は成績不可への道」と思って，積極的に発言しよう。そのために，次週報告範囲の事前レポートをしっかりと作成してこよう。そのために，教科書を事前にしっかりと読もう。そうした「予習」をやりやすくするために，比較的わかりやすい論理の本を教科書に選んだ。こうして，君の文章読解力も鍛えられるという高専最終学年にふさわしいオールラウンド型の講義となる。遅刻が多くなった場合は，その時点で，指示を出します。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	講義の流れ	
		2週	日本の統治構造	3 権の関係	
		3週	日本における違憲立法審査権	違憲立法審査権の内容と限界	
		4週	判例研究① 表現の自由	判決の理解	
		5週	同上	同上	
		6週	判例研究② 平等	同上	
		7週	同上	同上	
		8週	判例研究③ 平和主義	同上	
	4thQ	9週	同上	同上	

		10週	安全保障と平和主義	安全保障と平和主義との関係
		11週	同上	同上
		12週	技術の軍民共用問題	軍民共用の問題点
		13週	サイバーセキュリティ	サイバーセキュリティの内容と課題
		14週	同上	同上
		15週	後期末試験	
		16週	後期末試験の返却と解答解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	4	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	0	60
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20